

「抱っこ抱っこという時期は今しかないし、いずれ離れていくのは分かっているんだけど、こんなに甘えん坊でいいの?」「自分が行きたいところには親の手を振り払ってでも行くのに、2歳になっても3歳になっても、相変わらず抱っこ!いつまで続くのかなあ」と保護者の声。

しがみついて抱きしめられる感覚、抱擁感。親との一体感。肌のぬくもりや匂い、そしてお互いの鼓動まで感じられる抱っこって、何より安心ですよ。

絵本「ねたふりゆうちゃん」。ゆうちゃん いつも ねたふりするの。ねたふりしていると、いつもおかあさんが きて ふわって だっこしてー。子どもが寝たふりを好きなわけはね、お母さんにふわって抱っこしてもらいたいから。「わたしを見て」という子どもの心情。甘えたい、抱っこしてほしいという子どもの思い。お父さんお母さんは、抱っこで温かく包んでくれてとっても安心。それでいて力強くとても安全。抱っこで、大事にされている感覚や守られているという気持ちも育ちます。

「だっこのおにぎり」。だっこ だっこ ママ だっこ だっこのおにぎり してちょうだいー。子どもをおにぎりに見立てて、ぎゅっと抱きしめたりこちょこちょしたり、親子でスキンシップしながら楽しく遊べる絵本です。

昔は肩車をしてもらっている子どももよく見かけました。今でも時に見かけますが、笑みを浮かべて、何だか得意気にしている子どもの表情にほっこりします。肩車はバランス感覚や体幹の筋力も育てますが、どのようなことにも危険はつきもの。まずは子どもの様子を見ながら安全な場所で始められるといいですね。

お膝の上で抱っこされたりおんぶされたり、その時の心と体の温かみを、子どもはいくつになっても楽しんでいます。そしてこのように触れ合った心地よい体験は、親も子も永く心に留まるものです。

いつまでも続かない「抱っこして!」。寒い冬“ぎゅー”でお互いの温もりを感じてみませんか。

「ねたふりゆうちゃん」 阿部 結 著 白泉社

「だっこのおにぎり」 長野 ヒデ子 作 つちだ のぶこ 絵 佼成出版社